

## 在来線熊本駅舎について

### 1 経緯

H19.3 第1回トップ会議でのランドマークとしてのインパクトのある駅舎、著名な建築家の起用といった議論を踏まえ、安藤忠雄氏に依頼して在来線熊本駅舎の「デザインスケッチ」を策定し、第2回トップ会議で提示・公表。

H19.4～ J R九州が行う駅舎の基本設計に向けて、県とJ Rで諸課題について協議・調整。

H20.3 第3回トップ会議において、「デザインスケッチ」の建設費見込み額（約30億円）を示し、意見交換。今後の進め方や費用負担等について、それぞれ持ち帰り検討を行うこととなった。

### 2 駅舎整備の考え方

■ 駅舎は一度造ると50年、100年残るもの。博多駅や鹿児島中央駅では、新幹線開業を見据え、相当な投資が行われており、熊本が単なる通過点とならないためにも、後世に残る品格ある駅舎を整備する必要。

■ 熊本駅周辺整備は熊本が大きく飛躍するための極めて重要なプロジェクトであり、県がリーダーシップをとって進めるべき重要な政策課題。

■ 一方で、コストをできるだけ圧縮する必要もあるため、安藤忠雄氏と調整を行い、建設費を20億円程度に圧縮することで熊本市やJ R九州の基本的な了解を得た。

\* 建設費の負担割合については、県、市、J R九州の3者で分担することとし、細部については、今後詰めていく。

問い合わせ先  
地域政策課 内田(3571)  
ダイヤル(333-2137)  
新幹線都市整備課 西川(6281)  
ダイヤル(333-2527)